

第4回 航空大学校の養成に関する検討会 議事概要

日時：令和7年9月30日（火） 10：00～11：30

場所：中央合同庁舎3号館7階A会議室（ハイブリッド形式）

出席者：

（委員（行政以外））

土屋委員、牧野委員、関委員、宇佐川委員（オンライン参加）、小林委員、大塚委員

（行政）

国土交通省航空局 石井安全部長、梅澤安全政策課長、藏乗員政策室長、
大村首席航空従事者試験官

事務局からの資料説明後、意見交換を行った。委員からの主な意見等は以下のとおり。

- 操縦士は職業柄、フライト毎に異なるクルーと仕事をし、初対面でも誰とでも上手く業務を遂行する資質が求められる。クラスのまとまりも重要だが、クラスに欠員が発生した場合に待機中の他クラスから補完して、訓練を進めることは、将来操縦士にとって必要なコミュニケーションスキルを磨くことにも繋がる。
- 待機学生解消のために一時的に養成数が通常よりも多くなるが、2030年以降の状況は現時点見通せないため、外部リソースの活用は継続的でなく、あくまでも一時的な措置とするのが適切ではないか。活用時期はシラバス改訂とも重なり、管理が複雑になるため、現場に過度な負担がかからないよう配慮が必要。また、海外での訓練経験は学生にとっても将来的に貴重な財産となる。
- 訓練効率化のために、シミュレーターの更なる活用を検討すべき。
- 待機期間の有効活用のため、学生への航空会社におけるインターンシップの早期実現も重要。
- 恒常的な安定養成に向けて追加訓練上限を設定することについては、学生の操縦士としての適性を早期に見極めることにも繋がるため、結果的に学生、航大の双方にとって有益となることも考えられる。
- 待機学生の解消策の精度を上げるため、現在進めている取組や個別の施策の効果検証はしっかり行っていただきたい。
- 施策を進める上では現場の理解が重要であり、航大の教官・職員のモチベーションが保てるよう現場の知恵と経験を活かして、航大と航空局とで連携しながら取組を進めていただきたい。
- 大学でも同様だが、極端に女性の比率が低い場合、それによって女性の職業ではないといったアンコンシャスバイアスが発生し女性の参画が進まないことがある。操縦士の女性比率

1.9%をみると、この分野でもアンコンシャスバイアスを払拭する取組が必要。航大での女性活躍の推進に向けた取組が航空業界全体を牽引していけるよう着実に推進していただきたい。

- 産休・育休後に復帰しやすい環境整備を行うことで女性操縦士の定着に繋がることから、国として航空会社や現場の声によく耳を傾け、他分野の制度も参考に必要な制度整備等を進めていただきたい。
- 外部リソースの活用や、航大の女性比率拡大のための受入体制拡充については、外部の養成機関のキャパシティの確認や予算の裏付けを得るなど、しっかり実効性を確保して取り組んでほしい。

以上